

新春宣伝
1月4日(水) 8:15~ 天王寺駅東口

大阪労連第55回評議員会
1月21日(土) 13:00~ 国労大阪会館

23春闘勝利! 怒りの労働者総行動
1月31日(火) 8:15~

一部10円 組合員の購読料は組合費に含まれています 1993年6月22日第三種郵便物認可

あ
ん
な
い

ろーれん
クロスワードパズル

【とき方】二重カッコをアルファベット順に並びかえてください。あらわれた言葉・成句・詩歌が答えです。一部の文字は濁点に読み替えてください。

タテのカギ

- 1 駅伝で決死の〜リレー
- 2 屋内の板を敷いたところ
- 3 鍵。車の〜
- 4 まんなか。大〜小の各サイズ
- 5 かず。〜に明るい
- 6 用意。支度。〜が整う
- 8 旋律。詞に〜をつける
- 10 遺族を訪問し悔やみを言うこと。〜客
- 12 ひそひそ話。〜を禁ず

ヨコのカギ

- 1 多額。何億と言う〜を積む
- 4 血のつながり。〜は争えない
- 7 星。人気のある役者等
- 8 燃料油や潤滑油を注入すること
- 9 新聞の三面〜
- 10 まち。市〜村
- 11 うれしそうな顔つき。〜満面
- 13 身から出た〜
- 15 へいへいとして〜に従え
- 16 へいへいとして〜を制す
- 17 へいへいとして〜を制す

ヒント 差別をなくそう
出題 山本汎昭

ハガキまたはE-mailで〒・住所・氏名・組合名を必ず明記してください。
〈宛先〉 〒530-0034 大阪市北区錦町2-2 国労会館1F 大阪労連機関紙係
E-Mail: kikanshi@osaka-rouren.gr.jp
〈締切〉 1月25日(水)
(発表は2月号)
正解者の中から抽選で10人に図書カードを贈ります

10月号の答えは、「サイチンハゼンコクイチリソオ(最賃は全国一律を)でした。応募数はハガキ15通、メール101通、合計116通でした。次の10人の方に図書カードを贈ります。
当選者(敬称略)
峠田江里(富田林市職労)、小間物谷なつ子(貝塚市職労)、中瀬恵子(松原市職労)、馬場玲子(府高職労)、増尾能宏(府高教)、野村恵一(大障教)、八尾紀子(大学生協阪神統一労組)、森安健氏(財団分会)、稲富秀美(おおさかパルコープ労組)、牧野光洋(国労大阪)



はたらく女性の中央集会INおおさか

**ジェンダー平等社会を
実現しよう!**

11月19・20日、エル・おおさかで「第67回はたらく女性の中央集会INおおさか」が開催されました。

「はたらく女性の中央集会」は1956年に東京で第1回集会を開催。以来、女性労働者や自営業、農山漁村で働く女性の要求をもとに「はたらく権利と雇用・くらし・平和を守り、女性の地位向上と男女平等社会の実現」をめざし、はたらく女性たちが交流・学習・討論する場として開催されてきました。今年の大阪での開催に向けて、大阪労連女性部の役員が中心になり、労働組合だけでなく女性団体にも幅広く呼びかけ、現地実行委員会としてとりくんできました。

(2面に続く)



宝塚歌劇音楽家労組の演奏



天満橋での宣伝

「夜、鳥たちが啼く」
「そばかす」

「夜、鳥たちが啼く」は、人生を諦めかけた小説家と、愛をきらめかけたシングルマザーの奇妙な共同生活を描いた物語。若くして小説家となった主人公の憤り(山田裕貴)、鳴かず飛ばずの状態で付き合っていた恋人も離れていき鬱屈した日々を送っていました。そんなある日、友人の元妻である裕子(松本まりか)が一人息子とともに慎一の家へ引っ越ししてきました。自分が住んでいた家を裕子たちに与え、慎一はブレハブに住む、奇妙な共同生活がスタートします。誰もが寂しさを持って、傷つきながら生きています。同時に、誰もが優しく温かさを与えることができます。穏やかな光が差し込む作品です。出

「そばかす」は、「恋愛をしたことがない、そういう感情もない。だけど楽しく生きていける」それが私だと思ってる」生きている、アセクシユアルの女性の物語です。蘇畑佳純(三浦透子)は、男性が苦手な訳ではなく、女性が好きな訳でもありません。とにかく、他人を性的な対象として見る事ができず昔から恋愛感情を抱くことがないまま生きてきました。昨今、「多様性」の言葉は目につきますが、それを知らない家族や友人は自分の価値観、「社会の常識」を押し付けます。佳純は、彼らの考えや行動に時に反発し、時に助けられ、少しずつ、人とは違う自分の思いを確かなものにしていきます。理解できなくて、一個を認める寛容な社会は必要ですね。

12月16日より全国ロードショー

大阪労連 共済 .どっと来む 共済に入ってよかった!

今月は全国一般西淀川労働共済会組合員さんの「共済に加入してよかった」の記事を紹介します。

8月中旬に、長女(6歳)が通う幼稚園から「38度の発熱と喉の痛みを訴えているので迎えに来てください」と連絡が入り、妻と家庭での療養について話し合

いました。色々感染対策はしましたが、完全隔離での生活は難しく、数日後には次女(2歳)も発熱し、私と妻も順番に罹患し約1ヶ月間の自宅療養となりました。復帰後に、全労連共済(生命・医療)から給付がおりることを知り、申請して、約1ヶ月後に家族4人分の給付を受け取りました。療養生活は大変でした



が改めて「入ってよかったなあ」と実感しました。まだ加入されていない方はぜひ加入してほしいと思います。